

第3学年〇組 学級活動（1）指導案

日 時 令和7年〇月〇日（〇）第〇校時

場 所 3年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇

1 議題「卒業文集に載せる内容を決めよう」

ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

2 議題について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒は、真面目で落ち着いている生徒が多く、学級委員を中心に週に1つ目標をたて、クラスで達成を目指すなど、自分たちで自分たちの学級をよりよくしようと日々の生活に取り組むことができている。体育祭や合唱コンクールでは、クラス全体で協力しようとする雰囲気が見られ、また、自らの将来について思いを語る立志発表会では一人一人が将来について真剣に考え、発表することができていた。しかし、話し合い活動や、挙手を求められる場面では発表する生徒の固定化があり、発言に慎重な生徒が見られる。自分の思いや考えがあっても積極的に発表するには至っていない様子を感じられるため、何事も自分事として捉え、自分の意見や考えに自信を持って発言し、周囲もそれを寛容に受け入れることができる生徒・学級にしていきたい。

(2) 議題選定の理由

第3回の学級会ではB期を良い形で締めくくることができるように、学級目標で達成が不十分な項目の改善に向けて話し合った。今回も受験に向けてさらなるクラスの課題について話すなどの提案もあったが、卒業式まで残り数か月という中で、3年間の締めくくりを行うために、卒業文集を作成していく。中学校生活を振り返ってみると、感動的な思い出がたくさんあり、大人になっても、その時の感動を思い出せるような、学級全員の思い出に残る文集にしたいという生徒の思いから、個人のページやクラスのページをどんなものにしたらよいかを学級全員で考えるため学級会を行うこととなった。

3 研究課題との関わり

(1) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(2) 研究の視点

主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり
～特別活動の「見方・考え方」を働かせた話し合い活動の充実～

(3) 研究課題解決のための仮説と手立て

仮説Ⅰ 話し合い活動により、コミュニケーション能力が向上する。

- 手立て① 定期的に学級会を実施し、対話による課題解決の場を経験できるようにする。
手立て② 話し合い活動の中で適宜教師による助言を入れることで、正しい言葉遣いや他者を思いやる気持ちを育めるようにする。

仮説Ⅱ 話し合い活動により、主体性が身に付く。

- 手立て① 課題解決をする方法を自分事として捉え、考えられるようにする。
手立て② 出てきた意見を実際に行うことで、話し合い活動に対してより意欲的になり、また、行った取組を振り返ることで、よりよい方法や意見を自ら見いださせるように指導していく。

仮説Ⅲ 話し合い活動の充実により、生活の質とともに学力が向上する。

手立て① 学級で決まったことを実際に行うことで、主体性を養いながらも自分たちの学級をよりよいものとし、授業や学習に向かう力を養うことができるようにする。

手立て② 豊かな人間関係を構築させることで、お互いに学び合う姿勢を意識できるようにする。

4 第3学年の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	○学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。 ○合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	○学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	○学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。

5 事前の活動

日時 活動の場	生徒の活動 ○計画委員会●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
○月○日 (○) 帰りの会	●計画委員を募集する。	・できるだけ多くの生徒が計画委員を経験できるようにする。	◎計画委員に積極的に参加しようとしている。 【主】(観察)
○月○日 (○) 昼休み	○計画委員により議題を選定する。	・学級全体が共感できるような議題を選定できるようにする。	◎進んで議題を考えたり決めたりしている。 【主】(観察)
○月○日 (○) 帰りの会	●学級で議題を決定する。	・計画委員の提案のもと、全員で議題を決定する。	
○月○日 (○) 帰りの会等	●意見をアンケートで募集する。	・議題に沿った意見を考えられるよう声掛けする。	◎議題に沿った意見を考えられている。【思】(フォーム参照)
○月○日 (○) 昼休み	○計画委員はアンケートの意見を整理する。必要に応じて、可視化できる資料や短冊を用意する。	・話し合いの見通しをもつことができるようにする。必要に応じて、短冊への記入をしておく等の助言を行う。	◎学級で出た意見を見て、議題理由を考えながら意見を整理している。 【知】(観察)
○月○日 (○) 帰りの会	○学級会ノートに自分の考えを記入する。	・話し合うことや決まっていることが共通理解できるように助言する。	◎議題に沿って自分の意見を記入することができる。【思】(学級会ノート)

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

絆を思い出すことができる卒業文集の作成に向けた学級の取組について、学級全体で主体的に話し合いが行われるよう助言し、合意形成をできるようにする。

(2) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
1 はじめの言葉	・学級会のルールに基づいて行われる話し合い活動にする。	
2 役割の紹介	・自主的に学級会が運営されるよう、事前指導や当日の助言を行う。	
3 議題の確認	「卒業文集に載せる内容を決めよう」	
4 提案理由の確認	卒業まで残りわずかとなりました。これから卒業に向けて文集を作成していきますが、大人になって見返した時でも、当時の思い出や絆を思い出せるような卒業文集をつくりたいと考えています。そこで、今回はそんな卒業文集にするための内容についてみんなで考えていきたいと思い、提案することにしました。	
5 教師の話 6 話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・【出し合う→比べ合う→まとめる】を基本とし、出てきた意見を比較し、まとめていく。 ・充実した発表にするため、具体的な工夫が考えられるよう必要に応じて助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時の話し合いの意義や目標を理解し、主体的に話し合いに参加しようとしている。 【主】(観察) ◎積極的に自分の意見を発表し、仲間に伝わりやすいように発表している。【知】(観察) ◎仲間の意見も踏まえながら、お互いに納得できるよう折り合いをつけて話し合いを行っている。【思】(観察)
7 決まったことの確認	・決まったことをノート記録が発表し、きちんと確認できるように助言する。	
8 振り返り		◎話し合い活動を振り返りつつ、合意形成したことについて、主体的に取り組もうとしている。【主】(学級会ノートへの記述)
9 教師の話	<ul style="list-style-type: none"> ・良かった発言など紹介する。 ・計画委員の活動を称賛する。 ☆前回の学級会と比べ、良かった点や次回の学級会に向けての改善点を伝える。	
10 終わりの言葉		

7 事後の活動

日時	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
○月○日 (○)	・決まったことを背面黒板等に掲示する。	・全員にとってわかりやすく掲示するように助言する。	◎目標を意識し、級友と協力しながら実践に取り組んでいる。【思】(観察、学級会ノート) ◎学級会、実践を振り返り、全員で決めて実践するよさを感じ、次の活動に活かそうとしている。【主】(学級会ノート)
○月○日 (○) ~ ○月○日 (○)	・全員で決めた内容で、個人のページやクラスのページに取り組む。	・活動意欲を継続できるように、役割ごとの報告を取り入れるなど、適宜生徒が課題をもって取り組めるようにする。	
○月○日 (○)	・実践についての振り返りを行う。	・学級会の様子や実践のよかった点、課題等をまとめるよう助言する。	

8 備考 在籍生徒数：○名